

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893100095		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム川西見野		
所在地	兵庫県川西市見野二丁目14番1号		
自己評価作成日	平成28年1月23日	評価結果市町村受理日	平成28年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	平成28年2月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

① 入居されている方のご意向を汲み取り、その想いを形にしサービス提供を実施 (入居者主体のサービス提供)
② 入居者本人が出来る事は最大限職員と一緒に実施 (残存機能の活用)

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は認知症ケアの「リーディング・カンパニー」として、全国でGHを展開されている。当ホーム開設に当たっては、2ヶ月前から法人内の施設で職員研修を積み準備されてきた。開設後年数は浅いが、利用者の思いに寄り添う、施設づくりをめざし、サービスの向上に努めようとする職員の意欲が感じられる。利用者家族も気軽に来所されて、ケアに参加されている。2ユニットそれぞれに違った雰囲気、感じられ、会話が弾む明るい施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時にホーム運営理念を唱和し、各職員が意識しながら業務にあたるよう実践	本社の運営理念を事務室に掲げ、全職員が意識して業務にあたっている。オープン2年目を迎え、職員と意見を交わす中で、事業所の方針・目標を決め実践に努めている。	職員と一緒に事業所の方針・目標を作られた。職員総意の「思い」として成文化して掲げ、全職員で実践されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事やイベントには積極的に参加させて頂いている。また、地域内の保育園等に交流の依頼を行い、地域との関わりを深めれる取組みを実施。又不定期ではあるがホーム周囲の清掃活動をホーム独自で実施	自治会へは加入している。地域のお祭りや植木市等のイベントに参加している。近くの保育園と定期的に交流をいただけないか、検討を進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で実施のあった、介護フェアに参加し認知症の事及びグループホームに関する情報を地域住民の方へ話す。又、地域住民の方を対象に認知症サポーター養成講座をホーム主体で実施予定で現在準備中。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メールでの連絡を頂きたいやどの様な食事を提供しているのか知りたい。とのご要望に対して、メールでの連絡やり取りを可能にし、又食事に関してはご家族様にも普通の食事を召し上がって頂く機会を設けた。	偶数月に定例開催している。連絡にメールの活用や、食事会の開催などいただいたご意見は活かしている。地域や行政の参加がなく今後の課題だ。	地域の代表(自治会、老人会等)に参加いただき、ホームを知って頂くことから地域との交流が始まる。地域の一員としていい関係が出来る事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営面において不明点や指導を仰ぐ必要が生じた際には、連絡及び訪問を行っているが、それ以外の場面においては密な連絡は取れていない。	ホーム運営に関する不明点や疑問等については、電話やメールが多いが、訪問してご指導いただくこともある。GH連絡会に出席いただき情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や研修の場面で全職員に対して指導を実施。又毎月身体拘束が行われていないかをチェックシートを用いて点検を行い、必要に応じて改善を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人独自で定めたチェックシートを活用し、職員全員の対応状況の把握に努めている。玄関はオート錠が掛かる構造であり、ご家族からの声もいただいているが、今後の課題だ。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や研修の場面で全職員に対して指導を実施。身体拘束と同じくチェックシートを用いて点検を行い、必要に応じて改善を行い虐待が見過ごされないよう防止に努めている。	チェックシートや「あざ記録」を用いて日々点検を行い、会議や研修の場で振り返り、必要に応じて改善を加え、虐待を見過ごさないよう努めている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する研修を事業所としては持たせておらず、これまで個人の学習に任せていたところである。入居者の中にもこの制度を利用されている方もいるので、事業所として今後学習する機会を設け、職員の理解を深めていく必要を感じる	成年後見制度を利用されている入居者が1名おられるが、ご家族がまだしっかりされているので、施設としての取組みはない。社協の主催する研修会に参加し、理解を深めているところである。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	料金の改定があった際には、書面だけではなく、直接お話をさせて頂き、ご理解を少しでも得れるよう努めてきた。又それでも不明点があれば個別での説明も実施し、ご理解・ご納得頂けるよう努めている。	契約に当たっては、ご不明な点はないか納得いただけるまで説明に心掛けている。また、制度改定や契約内容の変更が生じた場合も、面談して説明しご理解・納得に努めている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回ご家族様に対してアンケートの実施を行い、ご意見やご要望をしやすいよう取り組んでいる。又、頂戴した意見に関しては、全職員に周知頂き、改善策を出し運営に反映できるよう努めている。	年1回法人全体でご家族にアンケートを実施して、結果を玄関に掲示している。毎日のように面会に来られる家族もおられ、積極的な対話により話しやすい雰囲気づくりに努めている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回職員に対してアンケートの実施を行い、意見や提案をしやすいよう取り組んでいる。又、不定期ではあるが、全職員と管理者とが個別の面談を行い、運営に反映できるよう取り組んでいる。	ユニット会議や全体会議だけでなく、日常から職員の声に耳を傾けている。12月には全員と個別面談を行い、意見の把握に心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備に関しては、各職員の意見や状況を把握した上で、よりよい環境作りを心掛けて行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の介護歴やスキルに応じた社内研修の実施を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修の推進及び事業所間の連絡会への参加促進等、同業者と交流する機会を作り、サービスの質の向上を目指している。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを通じて要望や不安なこと等は必ずご本人よりお聞きするよう努めている。うまく聞き出せない場合においては、家族様やこれまで携わっていた事業所の方より話を頂き、ご本人を理解できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安なことやご要望を聞きだした上で、事業所としてどのような提供が可能であるのかを提示し、理解を得れるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所への入所に関しての話だけでなく、状況に応じては、その方に適した介護サービスの情報提供も行うように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	目上の方である。との認識のもと関係を築いていると考える。又不適切な言動や職員の一方的な対応が生じていないかを、月に1度チェックシートに基づきチェックを行い、不適切な事象に関しては指導を行い、適切な関係を保てるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じてご家族様にもご協力を仰ぎながら、入居者様のサポートに努めている。又職員には補えない役割も持たれているので、可能な限り事業所に足を運んで頂けるよう依頼している。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状を出すやその方のご自宅近くまで買い物に出かけるなどの取組みのみで終わってしまっている。	ご要望をお聞きし支援している。、馴染みの美容院に行かれたり、家族と教会へ行かれたりしている。買い物と一緒に出掛ける等支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	機能的な問題で入居者が実施困難なこと、例えば洗濯物を干す畳むなどでは、他の出来る力を持っている入居者が実施し、互いに支え合い共同生活を行えるよう努めている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅に戻られた方に関しては、担当のケアマネージャの方に様子を伺ったり、療養型へ入院されご退去された方へは、お見舞いに行かせて頂いたり、可能な形で関係性の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりより、希望や意向を聞きだし、サービスの提供に努めている。又把握が困難な場合にはご家族等からお聞きし、少しでも本人の気持ちに添えられるよう努めている。	業務記録、申し送りなどを活用し、利用者個々の様子や、意向を感じ取り、記録し、日ごろの対応に反映できるようしている。特に誕生日には食べたいものや行きたいところ等へのお誘いなど、意向に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人又は家族より聞きだし、必要に応じて入居前に携わっていた方より意見を頂いている。又普段の会話より把握を行い、職員で共有できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で日々の様子を共有し、把握できるよう努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況・状態の変化に応じてより現状に即した介護計画の作成に努めている。その中には、家族の要望や職員の意見等を踏まえ、より良いサービスが提供できるよう努めている。	基本的に計画策定者と管理者・担当職員で、6ヶ月ごとに見直しを行っている。状態変化や、本人家族の要望など、日ごろのケア記録などに相応し、より良いサービス提供に反映できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に結果や気づき等を記入できていない場面が多くにあると考える。記録を見返した時に情報が少ない場面もある為に今後の課題であるとする。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方のニーズに即したサービス提供を心掛けており、その点においては既存のサービス内容にとらわれることなく、柔軟な体制に努めている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握には努めているものの、その資源の十分な活用が出来ていないと考える。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所として提携医療機関を設けているものの、以前からのかかりつけ医を継続されている方もいらっしゃる、その医療機関とも必要な連携及び通院の支援を行うよう努めている。	個別に従来からのかかりつけ医を継続受診され、家族が付添っていかれる場合が多いが、緊急時等の通院支援には対応している。提携医療機関からは毎週金曜日1階と2階交互に往診対応が出来ており、施設看護師と連携ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が不在の時には、電話で報告・相談できる体制をとっており、迅速に対応できるよう努めている。又個々の記録とは別に看護師に医療面の情報漏れが生じないように、連絡ノートを活用し実施している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院のソーシャルワーカーに訪問し、関係構築に努めている。又入院中の入居者の状況に関しても定期的に入院先に行き、担当看護師と話を持てるよう心がけ早期の退院に向け実施している。	入院時は、最低週1回管理者他施設職員が見舞いに行き、状態の把握に努め、退院時などスムーズに連携・対応できるよう、情報交換に努めている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約において、ホームの指針をご説明し、ご認識頂けるよう努めている。本人に対しての説明は行っていない。終末期に入る恐れがある方に関しては、早い段階で医療・家族を交え話し合い、方針を決めるよう取り組んでいる。	入居時から状態が重く、半年後に看取りをした事例がある。かかりつけ医から、家族、管理者が同席のもと、身体状況の説明を聞き、対応についての確認をして、終末期には、家族が同室で付添うこととしながら、施設職員・医療者との連携で対応が出来た。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応方法等はマニュアルや研修を通じ実施しているものの、言葉や紙ベースでの学習で終わってしまい、より実践的な訓練の実施はできていない。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の訓練の実施に終わってしまい、全職員が身につけている状況にはなっていない。又災害発生時の地域との協力体制においても不十分な状況にある。	施設は、スプリンクラーの設置、オール電化の設備であり、火災が発生しにくい構造ではあるが、避難誘導の際には、地域の住民の協力も必要である。災害対策用の備蓄等も有り、地域の社会資源としてのアピールを期待したい。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや対応に関して、日頃より注意を払い実施していると考え。時に不適切な対応が見受けられる際には、その場で指導を行い、事業所全職員の意識を向上できるよう努めている。	法人独自の、不適切ケアにならないためのチェックシートを活用し、事業所職員全員の対応状況の把握に努め、場合によってはその場で即指導改善できるよう取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るようにサービス提供を行うように努めているものの、時に職員が主導となり意向を十分に確認せずにサービス提供を行っている場面もあるように感じる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の希望する過ごし方に添う形でのサービス提供に努めているが、その日の過ごし方を一人ひとり確認しながらの実施はできていない。職員の決まりや都合を優先させている場面は少ないと考える。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容には気を配ってはいるものの、「その人らしい」に関しては十分に把握した上での支援ができていないのが現状。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや準備・片付けは職員と一緒に実施している。又週に1度は入居者の方が主導となり食事を提供する場面を設け機会の確保に努めている。	献立は本社で一括作成されているが、調理専任職員が1名で、利用者の好みや体調により献立の変更も対応している。職員も一緒に同じテーブルで食事をし、会話しながら利用者の様子の把握ができています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食分量や水分量が不足しがちな方に対しては、代替え食品の提供やゼリーや果物の提供などを行い少しでもバランスよく食事が摂取できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず毎食後に口腔ケアを実施している。本人が困難な箇所を職員が支援し、清潔保持に努めている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に課題のある方に対しては、排泄表等を活用しパターンを理解し、トイレでの排泄ができるよう支援。過度なおむつの使用を行わないよう努めている。	排泄表を活用し、無理強いすることなく、清潔保持の時間をとり、おむつからトイレでの排泄を自然な声掛けで実現できるよう取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料を導入したり、腹部を温める又はマッサージを行う等をして薬に依存せずに排便を促す取り組みを行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日によって入浴者の決定はしていないが、その日の入浴者は本人の意思は確認するものの、職員が決めてしまっているのが現状。入浴の希望があった際、曜日や時間帯によっては希望に添えない時があり、その際は足浴や清拭で代用。	入浴時間はなるべく意向に沿えるよう、聞き取りをし、承諾をえるようにされている。浴室は、利用者の身体状況に合わせた位置に手すりを移動できるように整備され、清潔に保たれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人からの訴えが困難な方に対しては表情や状況、これまでの生活リズムを鑑みながら休息して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化には常に意識をして関わりを持っていくものの、副作用や用量に関して全入居者分の理解には至っていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持って生活頂けるよう支援はしているものの、一部の入居者の方に限られてしまっているのが現状である。気分転換の方法も個別の状況に応じた対応でなく、一定の対応でしか行っていない。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最大限希望があった際には戸外へ出かけられるよう支援に努めているが、人員状況によっては希望が添えない場面も多くにある。今年より誕生日の月に本人の希望を1つ実現できるよう家族様と連携を図りながら実施していくところである。	洗濯もの干し、花の水やり他、ちょっとした事務用品の買い物等あらゆる機会をとらえて声掛けを行い、戸外で寛いでいただけるよう支援している。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持に関する制約は設けていないが、十分な管理が困難である為に、家族様と協議の中で事業所が管理保管されているケースが多数である。ただ、職員と買い物に出る際などはお金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があった際には支援しているものの、訴えがない方に対しては特別な支援はできていない。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間を作る際に職員が主導となるのではなく、入居者の意見や動きを中心に整備していくよう努めている。また、季節を感じる置物等は入居者と一緒に準備を行うように努めている。	リビングダイニング形式で、長椅子等があり、食事介助に来られた家族の方も一緒に過ごされ、食後も自室に帰るのではなく、思い思いにリビングのソファで横になる等寛がれている。利用者の作品などのレイアウトはないが、明るく清潔に整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で独りになれるスペースの確保はできておらず、その様な場合は個々の居室へ誘導し対応している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で生活していた時の物品の持込みを可能な限り依頼しており、少しでも落ち着く環境作りを心掛けている。	ベッドのほか必要な家具を配置され、孫、親戚の写真や好みの趣味の細工物などで思い思いに自室を飾られている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自身の居室が判りにくい方に対しては、本人が認識できる目印を設置はしているものの、建物すべてにおいて同様の取組みは出来ていない。		

基本情報

事業所番号	2893100095
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社
事業所名	愛の家グループホーム川西見野
所在地	川西市見野2丁目14-1 電話 072-791-6070

【情報提供票より】平成 28年1月23 日事業所記入

(1)組織概要

開設年月日	平成 26年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	11人 非常勤 5人 常勤換算 14.1人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての1・2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	71,000円	その他の経費(月額)	管理費 1400円 水道高熱費 21,000円
敷金	142,000円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無し	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日		1,200円

(4)利用者の概要(1月23日現在)

利用者人数	15 名	男性	4 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	70 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人祥風会 豊中みどりクリニック
---------	--------------------

目標達成計画

作成日: 平成 28 年 4 月 6 日

目標達成計画は、自己評価及び第三者評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	地域の代表者の参加実績が少なく、ホームと地域の方との関わりも薄い状況にある。その為に、今後如何に地域を巻き込んでホーム運営を行っていくかのかが、課題である。	①地域代表者の定期的な会議の参加 ②地域住民との関わり増	①自治会の会合への定期的な参加による関わり強化 ②福祉委員会主催の行事への積極的参加による地域住民との交流機会確保	3ヶ月
2	1	事業所としての方針や理念は掲げているものの、全職員が共有し同じ方向性で日々実践に至っていない状況もある。サーブシに関わる全ての職員が、同じ考えの基にサービス提供及びホーム運営を行っていけるかが、今後の課題である。	全職員がホームの理念及び方針を理解し、共有した上で実践につなげることが出来る	①朝礼及び会議の場で唱和を行い、各職員の意識向上を図っていく ②事業所の目の場所に、ホームの理念、方針を掲示し意識を上げていく	3ヶ月
3	35	災害時に全ての職員が円滑に動ける状況になっていない。どのような状況であっても、全職員がスムーズな対応をとれるようになることが、今後の課題である。	①全職員が避難方法を理解し行動に移せる ②地域の協力体制が築けている	①2か月に1回は自主訓練を行い、設備の使用方法を含め各職員の理解を深めていく ②地域住民の方にも消防訓練に参加頂く機会を設け、協力体制を構築させていく	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(様式2(2))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他(③に関しては提出はしているが、市区町村担当者との状況の話し合いは未実施)
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他(①全職員との話し合いには至っていない)